

5月22日(月)

自由への道

聖書朗読 ローマ 6：15～23

あなたがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隷として用いなさい。
Iペテロ 2：16

アメリカ人であれば誰でも、自由の概念は心にしみこんでいます。私たちの祖先は、抑圧から自由を勝ち取り継続するため、多くの犠牲を払いました。この自由はしかしながら、私たちがしたいことなら何でもできるというものではありません。例えば、隣に住む人の新車を取ったり、誰かを殺したりすることはできません。私たちが自由を享受するためには、この国の法律にかなうかどうかを考えなければなりません。

同様に、クリスチャンとして私たちは神様の恵みによって罪から自由になりました。しかし、その恵みは、私たちに好きなことを何でもしてよいとは言っていません。キリストにある自由を受けながら、私たちは自分自身を正義への奴隷として提供するのです。私たちは主人(すなわち、主)を一人、そのために取引きしました。ですから私たちは自分たち自身を心から主人(すなわち、主)へ捧げなければなりません。

自由への道は私たちの期待どおりにはいきません。実際に、私たちは何かをあきらめたり、私たちが達することができるものよりはるかに大きなものに降服しなければなりません。しかし、主のくびきはあなたにぴったり合うのです。

私たちは神を見つけるときに自由を見つける。

神を失うときに自由を失う。

———ポール シェラー

讃美歌 第二編 230

祈り 主よ。私たちが自由にしてくださったあなたのすばらしい恵みに感謝します。あなたの御名において、その自由をもって他人に仕えることができますように。

キリストを通して祈ります。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州 グランベリー

今日のカ

2017年5月22日～5月28日

翻訳 ゲラ弘美

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

5月23日 (火)

行動で讃える

聖書朗読 ローマ 15:7~13

キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。 ローマ 15:7

私たちはどのくらい良く神様を賛美しているでしょうか。賛美は私たちがクリスチャン生活を送っているうちに、だんだんと良くなっていくべきものです。しかし、私たちの多くは、まるで賛美しなければならないので賛美しているかのようにみえます。もしごちなくためらいがちに賛美している人がまだいるなら、自分自身に問うてください。「なぜ？ どうして私は上手に讃えることができないのかしら」と。今日のローマ人への手紙からの朗読箇所は、私たちに神様への賛美をふやす具体的な方法を教えてくれます。それは『キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。』と言っていることです。イエス様は私たちが成熟するまで、私たちが自分たちの行動を正すまで待つことなく、その愛をくださいました。イエス様は条件なく私たちを受け入れるためにくだってこられました。『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。』(マタイ 11:28)と言われながら。

主が私たちを高みに持ち上げてくだされば、その瞬間から私たちは高みから他の人たちを見てしまいがちです。しかし、イエス様は私たちが正すために地上へこられたのではありません。私たちが救いに来られたのです。私たちはしばしば、自分たちと同じレベルで他人も理解すべきだと主張してしまいます。しかし、イエス様は違いました。パウロは「キリストが私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい」と言っています。人々を神様へと持ち上げなさい。そしてそうすれば、それが賛美を神様にもたらすことになるのです。

讃美歌 537

祈り 親愛なる主、救い主よ。あなたが言い訳をすることなく、私たちを受け入れてくださったのと同じように、私たちが他人を受け入れることができるように助けてください。「神様、ありがとう」。

イエス様の御名のもとに。アーメン。

ビル・ヘネガー

カリフォルニア州 ウェストレイクビレッジ

5月24日 (水)

私の人生の目的

聖書朗読 IIコリント 3:12~18

私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。 IIコリント 3:18

最近、男性のための聖書研究会に参加した時、私たちは聖書の一か所を選び、それに基づいて自分の人生の目的を書くように言われました。その次の週の間、私は今日の聖書朗読箇所を選び、次のような「私の人生の目的」を書きました。

「この地上での私の人生の目的は、神様の存在の中に留まり、その栄光を見つめながら、聖霊によって段々と神様の姿に近づけるようにすることです。この朗読箇所は、神様が私を天国に呼ばれるまで、精神的に進歩し続けることができるという希望を与えてくれます。私は神様を見つめ、信頼し、賛美し続けることを今日の日約束します」。

この「人生の目的」によって、私の日々の祈りと瞑想の仕方は変わりました。私が神様の栄光を見つめてその中に留まって居られるように、私の考えを変え続けてくれます。私は祝福されているのです。

讃美歌 326

祈り 栄光の主よ。あなたの栄光を私たちがずっと保っていられますように。あなたと同じかたちでいられますように。

イエス様の御名を通して敬虔に祈ります。アーメン。

ブルース・M・ヘンダーソン
ネバダ州 カーソンシティ

5月25日 (木)

助言せず苦しみを分け合って

聖書朗読 IIコリント 1:3~7

私たちが、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。 IIコリント 1:4

私の人生の最悪の日についてお話します。私の妻のデビィは妊娠中で、定期健診に行くことになっていました。私も同行するかどうか二人で話し合いましたが、私がいなくても大丈夫だろうということで、妻は一人で出かけました。私在家で待っていると、電話が鳴りました。電話先の妻は泣いているので、何を言っているのかよくわかりません。妻にかわって担当医が説明してくれました。流産でした。私たちの赤ちゃんは死んでしまったのです。

多くの人々が、悲しみの中にいる私たちを慰めようとしてくれました。何人かは他の人たちよりも上手に慰めてくれました。私たちにとって一番ありがたかった慰めは、「何と言って慰めたらいいかわからないけど、でも私たちがあなた達を愛しているということを知っていてほしい」という言葉でした。最も慰めにならなかったのは、自分たちが流産の経験をどうやって乗り越えたかについて話す人たちでした。彼らは私たちと苦しみを分け合うのではなく、自分自身の経験を誇らしげに語ったのです。

神様は説明によってではなく、物事を正すことによってでもなく、私たちと悲しみを分け合うことによって慰めてくださいます。神様もまた子どもを失いました。もっと重要なことは、神様はかつて私たちをも失われたことです。

私たちは、空虚な説明や軽い説得からではなく、愛を持って苦しみを分け合うことによって一番慰められます。

誰も助けとはならず、慰めにも見放された時、
どうすることのできないというこの状態自身が、
私に留まって助けとなりますように。

—————ヘンリー・ライテ

讃美歌 第二編 103

祈り 慰めの神よ。私たちが深い苦しみの中にいるときは共にいてください。苦しんでいる人たちを、あなたの慰めへと導くことができますように。
キリストにおいて。アーメン。

ギャリー・ホローウェイ
テネシー州 ナッシュビル

5月26日 (金)

和解の扉

聖書朗読 IIコリント 5:11~21

これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の努めを私たちに与えてくださいました。

IIコリント 5:18

コロンブスがアメリカを発見した年、アイルランドの二つの家族、バトラー家とフィッツジェラルド家の間では、どちらが主権を握るか、ひどい反目が続いていました。争いがコントロールを失ってしまった時、バトラー家の人々は、ダブリンの聖パトリック大聖堂の中の鍵のある部屋に逃げこみました。フィッツジェラルド家の当主は彼らに和解のために部屋から出てくるよう頼みましたが出て来ません。仲直りをしたいという言葉も、恐れから信頼できなかったのです。

そこで、フィッツジェラルド家の当主はその部屋の扉に穴を開けるように命じました。そして、その穴から自分の腕を差し入れると、和平を示すジェスチャーをしました。バトラー家の人々はその時初めて、フィッツジェラルド家の当主が本気で和解したがっていると分かり、その部屋から出て来ました。今日アイルランドでは、「和解の扉」は人々が訪れる名所となっています。

神様は人類のすべてに和解するように命じています。しかし多くの人々はバトラー家の人々のようです。和解を信頼することができません。神様はご自分の御子を和解のために送られました。その御子は和解させようと懸命に働きました。私たちには、そのメッセージを受け取るだけでなく、キリストの死を通して神様が私たちの罪を赦すとお約束してくださったことを、他人と分け合う責任があります。

讃美歌 507

祈り 親愛なるお父様。あなたの名を讃えます。あなたの御子イエス様による美しい和解を、私たちが他人と分け合うことができますように。
イエス様の御名において。アーメン。

ラニータ ブラッドレイ
ケンタッキー州 フォートトーマス

5月27日（土）

特別支援が必要な神様の子ども

聖書朗読 エペソ 1：1～12

神は、みこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。 エペソ 1：5

妻と私は、12歳になる特別支援が必要な孫を育てる手伝いを楽しんでいます。私の娘とその夫は、7歳になったばかりの男の子を「あるがままの姿で」養子としてから、それは始まりました。この過去5年間の間、孫が出席した学校、放課後保育施設、カウンセラー、病院の数は1ダースを超えます。家族全員がこの子を深く愛しています。しかし、知的な障害があるため、孫も私たちも生活するのがたいへんです！しかし、私たちはたくさんのお話を学びました。それを短くリストにまとめてみると、以下ようになります。

1. 私たちは皆「特別支援が必要な」神様の子どもです。
2. 神様は私たちを救おうとする愛によって「あるがままに」受け入れてくださいます。
3. 私たちは皆、人生の様々な時に異なる仕方、困難に出会ったり、困難から抜け出たりします。
4. 神様はそれでも、私たちを皆、深く愛してくださいます。
5. 人生は誰にとってもチャレンジで、違うのはその程度だけです。

「特別支援」の必要な子どもを育てる楽しみを味わえないであろう多くの人へ、私は上記のリストを自分の人生に当てはめてみることをお勧めします。そして「特別支援」の子どもを育てる喜びを味わっている親や祖父母の皆さんには、このリストには何も加える必要はないことをお伝えしたいと思います。

讃美歌 511

祈り 忍耐強きお父様。あなたは愛による希望から私たちの罪を免除しようと、「特別な支援を必要とする」障害児なる私たちを養子としてくださいました。そのことを覚えて。
イエス様の御名において。アーメン。

マーク・R・ガイ
オハイオ州 ウェストキャロルトン

5月28日（日）

もっと祈りましょう！

聖書朗読 エペソ 3：14～21

心を尽くして主に投げ頼め。 箴言 3：5

私の友人のロンダとその夫がカリフォルニアからテネシー州のメンフィスに引っ越すことになりました。そのため家の価格は下がっていましたが、持ち家を売ることになりました。彼らの家は聖書の勉強会をするために広い部屋を建て増していたので、ロンダはクリスチャンの夫婦がこの家を買ってくれるようにと祈りました。そうすれば近所の人々にもよい影響を与えることができるでしょうから。

数人が家を見に来ましたが、誰も買おうという人がいません。最後に中国人の夫婦が不動産屋と一緒に家を見に来ました。彼らは長い時間をかけて部屋を全部見て回りながら、中国語で話し合っていました。ロンダは彼らの会話を全く理解できませんでしたが、買う意志がありそうなことは分かりました。その夫婦は仏教徒だろうと思って、ロンダは失望し、悲しく思いました。「神様、あなたが仏教徒にこの家を買わせたいと思うのであれば、それでも結構です。あなたのビジネスですから」。

最後に中国人の妻がロンダのところに来て言いました。「質問してもよろしいでしょうか」「ええ、もちろんです」。「あなたはもしかしてクリスチャンですか」。ロンダは驚いて答えました「はい。私たちはクリスチャンです」。その人は続けました。「私たちもクリスチャンです。私たちは聖書の勉強会をするために大きな部屋のある家が見つかるように祈っていました」。

あなたは祈りに答えてくださいます。

讃美歌 291

祈り お父様。私たちが祈り信頼し待つように助けてください。私たちの祈りに完全に答えてくださる事だけでなく、私たちの想像以上のことをしてくださることに感謝します。

イエス様の御名において。アーメン。

サリー・J・ジャンク
ウェストバージニア州 ヴィエナ